

渋沢栄一に学ぶ、企業経営の哲学

1 ステークホルダー資本主義と合本主義

銀行は大きな河のようなものだ。銀行に集まってこない金は、溝に溜まっている水やポタポタ垂れている滴と変わらない。折角人を利し国を富ませる能力があっても、その効果はあらわれない。
(第一国立銀行株主募集布告)

2 「と」の力 サステナビリティ インクルージョン

論語と算盤：『合理的の経営』

その経営者一人がいかに大富豪になっても、そのために社会の多数が貧困に陥るようなことでは、その幸福は継続されない。



論語と算盤：『論語と算盤は甚だ遠くして甚だ近いもの』

正しい道理の富でなければその富は完全に永続することができない。従って、論語と算盤という懸け離れたものを一致させる事が今日のきわめて大切な務である。



3 アフター・コロナの常識と企業のパーパス

論語と算盤：『常識とはいかなるものか』

『智』、『情』、『意』の三者が権衡を保ち平等に発達したものが完全の常識だと考える。

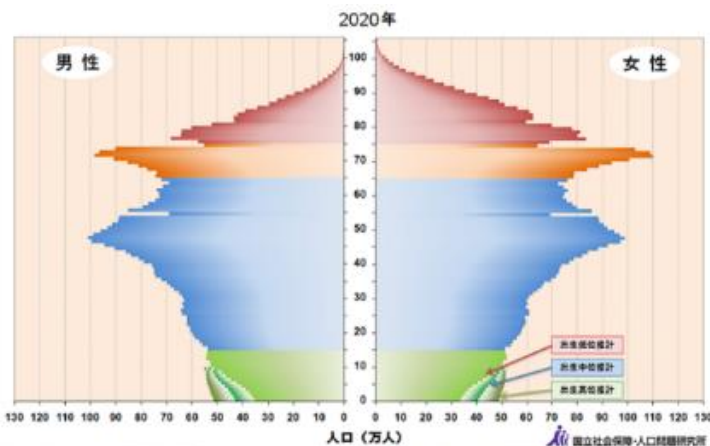
経営理念：パーパス ビジョン ミッション バリュー等

「BCG 次の10年で勝つ経営」



4 時代の節目を迎えている日本

アフター・コロナの Beyond 2020



資料：1926～2016年：国勢調査、推計人口、2011年以降：『日本の将来推計人口（平成24年1月推計）』。



渋沢栄一に学ぶ、企業経営の哲学

5 逆境に立ったときの心構え

論語と算盤：『大丈夫の試金石』

自分からこうしたいああしたいと奮励さえすれば、大概はその意のごとくになるものである。しかるに多くの方は自ら幸福なる運命を招こうとはせず、かえって手前の方からほとんど故意にねじけた人となって逆境を招くようなことをしてしまう。それでは順境に立ちたい、幸福な生活を送りたいとて、それを得られるはずがないではないか。

渋澤 健

シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役。コモンズ投信株式会社取締役会長。1961年生まれ。69年父の転勤で渡米し、83年テキサス大学化学工学部卒業。財団法人日本国際交流センターを経て、87年UCLA大学MBA経営大学院卒業。JPモルガン、ゴールドマンサックスなど米系投資銀行でマーケット業務に携わり、96年米大手ヘッジファンドに入社、97年から東京駐在員事務所の代表を務める。2001年に独立し、シブサワ・アンド・カンパニー株式会社を創業。07年コモンズ株式会社を創業（08年コモンズ投信(株)に改名し、会長に就任）。経済同友会 幹事およびアフリカ開発支援戦略PT副委員長、UNDP（国開発計画）SDG Impact Steering Group 委員。東京大総長室アドバイザー、成蹊大学客員教授、等。著書に『渋沢栄一 100の訓言』、『SDGs投資』、『渋沢栄一の折れない心をつくる33の教え』、『超約版 論語と算盤』他。

